

藝史上新に發明する所が多かつたりすることをはじめ、一々の成績は到底こゝに述べ難い。重要な結果として特に注意すべきことは、かゝる研究の結果、支那の史乘に見ゆる此の地方の記事を、從來とは異つた概念の下に扱ひ得るに至つたことである。

前に述べたやうに、此の研究はなほ繋つて將來にある。遺物が一箇所に集められなかつた代りに、各國夫々その獲た史料の主要なものを研究を経たと否とに拘らず出版して、廣く世界の學界に研究を促し學問に國境無きの實を示して居る。今は茲に筆を擱いて將來更に著しい研究の結果を傳へ得る日を待つ事にする。

〔大正十一年十一月一日以來七回に互り大阪朝日新聞に連載されたるものに據り、新西域記下卷附録として掲載〕